

令和7年度 第1回 佐世保市図書館協議会 会議録

1. 日 時 令和7年10月28日(火) 午後4時～午後5時00分

2. 場 所 佐世保市立図書館 4階 A会議室

3. 出席者 ○佐世保市図書館協議会委員 (定数5名)(出席3名)

- ・学校教育関係者 中里 紀和子 ・社会教育関係者 豊村 貴美子
- ・学識経験者 坂口 さとこ

○事務局・説明者

- ・文化スポーツ部長 吉田 裕一郎
- ・図書館長 浜田 裕子 ・館長補佐兼図書第一係長 林 慎一
- ・館長補佐兼図書第二係長 内海 由佳

4. 会次第

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 会長選任

(4) 議題

- ①令和6年度決算状況について
- ②佐世保市立図書館開館時間の見直しについて
- ③その他

(3) 閉会

5. 議事(要点筆記)

(1) 開会

(2) 議題

①令和6年度決算状況について

《 質 疑 》

○A委員:

市民の関心が高い積極的な取り組みは、新聞などで取り上げられ、図書館の活動が目に見える形となっている。

○B委員:

小さい子どもから大人まで楽しめる様々な取り組みが行われており、多くの人が訪れたいのではないかと感じる。

特にビブリオバトルは、以前勤務していた学校でも生徒が積極的に参加していた。

学校と図書館が連携し、ビブリオバトルを推進し、図書館を利用するきっかけにしてほしいと考えている。

○C委員：

大学ではビブリオバトルをカリキュラムとして取り入れており、新一年生に特に重視している。

この活動を通じて、図書館に通う習慣や、本の面白さを知り共有することが学術の基本として重要であると考えられており、有意義であると考えてる。

また、郷土研究所の活動についても、地域の有識者や小中学校の先生が協力して熱心に取り組んでいる点が大変興味深く感じる。

○事務局：

佐世保市立図書館には「郷土研究所」があり、図書館主催の行事として活動している。

研究所には研究員と研究客員の先生が所属しており、研究員には社会科の中学校教師が4名含まれている。

研究客員の多くは元学校の先生で、夏休みの郷土学習教室で説明を担当しています。

○A委員：

研究員の方々が文化協会に関わりつつ、個人で興味深い本を出版されることが過去にも何度もある。

○C委員：

小学生から高校生と一緒に活動をされるということか。

○事務局：

主な行事には一般の方も参加いただける。

去年は小学生、中学生の参加はあったが高校生の参加はなかった。

○C委員：

小中学生の参加が主ということか。

○事務局：

そのとおりである。

②佐世保市立図書館開館時間の見直しについて

《図書館長から図書館協議会会長へ諮問書提出》

《 質 疑 》

○B委員：

色々な分野において時代の転換期にあたっているなど感じる。

土曜日の閉館によって日中の勤務体制が充実することは、とても良いことだと思う。

○C委員：

予約本の貸出ロッカー設置の検討を始められているということだが、これは返却可能で、加えて予約の本を受け取ることができるという理解でよいか。

○事務局：

現状では、24 時間利用可能な「返却ポスト」が 4 つの図書室と本館に設置されている。

図書の貸出ロッカーについては、利用者が予約した本を職員がロッカーに入れ、利用者がカードのバーコードをロッカーの読み取り機にかざすと開く仕組みとなっている。

開館時間内に図書を受け取れない場合に対応するため、ロッカーの導入を検討している。

○C 委員：

それがあれば 24 時間図書の貸出対応が可能なのか。

○事務局：

代替措置となると考えている。

○C 委員：

講座室を土曜日利用している人が 10 人ほどいるようだが、どのような市民が利用しているのか。

○事務局：

10 人の属性は詳しく把握していないが、講座室を出入りする人の中では、高校生が多く、数名の社会人もいる。

○B 委員：

経年的なデータと分析に基づき、今後の方針が進められていますが、特に利用者への配慮が必要だと思う。

具体的には、図書館を居場所とする人々への事前の周知や、貸出方法、特にバーコードの使用方法についての案内が重要である。

また、令和 8 年度からの変更について、早めに利用者へ周知するべきだと思う。

○事務局：

周知についてはできるだけ早く開始したいと考えている。

貸出ロッカーに関しては、まだ検討中で、予算との関係でスムーズに導入できるかどうかは未定である。

○A 委員：

まず、土曜日の開館時間の変更を行って、その後状況を見て次のステップに進むという流れになると思う。

○事務局：

今回の見直しの一つとして、職員のワークライフバランスを改善することも考えている。

夜間の講座室利用がバス便の減少によって利用者が減少しているだけでなく、帰るための手段がない職員が生じている。特に土曜日には夜遅くまで運行しているバス便が少なく、働く環境を含めて検討する必要がある。

○A委員：

支える職員がいなければ図書館は機能しない。非常に重要なことだと感じる。

○事務局：

委員からご質問のあった貸出ロッカーについてだが、まず令和 8 年度から土曜日の開館時間を調整する予定としている。

ご存じの通り、貸出ロッカーの導入には予算が必要であるため、今後、土曜日以外の開館時間を調整する議論の中で、代替策として検討を進めたい。

③その他

●次回開催について

令和 8 年 2 月下旬から 3 月中旬までの間を予定。日程については事務局で連絡調整する。

(3) 閉会

以 上